

今月のトピックス

年末年始の旅客輸送等の動向について

I 平成16年度年末年始の旅客輸送等の動向

1. 鉄道

① JR（平成16年12月28日～平成17年1月5日）

29日及び31日に、関東地区は降雪を伴う荒天に見舞われたものの、列車の運行には大きな輸送障害もなく、のぞみ増発効果もあったことから順調に推移し、JR全体では前年同期比2%増となった。しかし、JR東日本については、新潟県中越地震の影響もあり、5年ぶりに前年を下回り、前年同期比1%減となった。

新幹線については、のぞみ増発効果のあった東海道新幹線及び山陽新幹線をはじめとして、総じて前年とほぼ同水準ないし前年を上回り好調であった。特に、開業後初の年末年始を迎えた九州新幹線は前年同期比で約2倍の94%増となっている。しかし、上越新幹線については、新潟県中越地震の影響及び雪不足によるスキー客の減少により、前年同期比で5%減となった。

JRグループ主要区間における特急・急行列車上下計の断面輸送量（単位：千人）

会社名（区間数）	期間	H15.12.28 ～H16.1.5	H16.12.28 ～H17.1.5	前年比（%）
JR北海道（4）		346	351	101
JR東日本（18）		3,883	3,827	99
JR東海（10）		2,632	2,803	106
JR西日本（12）		2,063	2,102	102
JR四国（3）		124	132	106
JR九州（3）		451	483	107
計（50）		9,500	9,697	102

※合計値、前年比は四捨五入の関係で合致しない場合がある。

新幹線旅客輸送人員前年比（%）

東海道	山陽	東北	上越
107	105	101	95
長野	山形	秋田	九州
101	100	99	194

※九州新幹線は16年3月開業のため、前年比については在来線のデータと比較。

② 大手民鉄(平成16年12月31日～平成17年1月3日)

関東については、大晦日から元日朝にかけて、降雪と寒さがあったものの、元日昼は天候が穏やかであったこともあって、沿線神社仏閣への初詣や沿線商業施設等への出足が好調であり、対前年同期比2.7%増となった。

一方で、関西については、悪天候が元日昼まで続いたこと等から前年を下回り、前年同期比2.9%減となった。

全体ではほぼ前年なみ、前年同期比0.5%増となった。

大手民鉄 定期外旅客輸送量			(単位:千人)
会 社 \ 期 間	H15.12.31 ～H16.1.3	H16.12.31 ～H17.1.3	前年比(%)
関 東 9 社	18,306	18,795	102.7
関 西 5 社	9,332	9,058	97.1
そ の 他	2,509	2,458	98.0
計	30,147	30,311	100.5

※関東9社は、東武、西武、京成、京王、小田急、東急、京急、東京メトロ、相鉄。関西5社は、近鉄、南海、京阪、阪急、阪神。

その他は、名鉄、西鉄。

※※合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

2. 国内航空(平成16年12月25日～平成17年1月6日)

29日及び31日に関東地区は降雪を伴う荒天に見舞われたものの、年始は天候が穏やかだったこともあって、全体としてはほぼ前年なみ、前年同期比0.9%減となった。

方面別では、関西、沖縄方面が特に好調であった。

なお、ピークは下りが12月30日、上りが1月3日であった。

(単位:千人)			
会 社 \ 期 間	H15.12.25 ～H16.1.6	H16.12.25 ～H17.1.6	前年比(%)
日本航空	1,651	1,633	98.9
全日本空輸	1,639	1,633	99.6
スカイマークエアラインズ	88	86	98.6
北海道国際航空	44	41	92.6
スカイネットアジア航空	36	33	90.3
計	3,457	3,425	99.1

※合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

※※日本航空は、JAL、JEX、JTA、J-AIR、RAC、JAC、HACの合計値。

※※※全日本空輸は、ANAとADKの合計値。ANAはANK及びA-netを含む。

3. 国際航空（平成16年12月25日～平成17年1月6日）

邦社国際航空については、昨年はSARSの影響が残っていたことの反動増もあり、前年同期比3.5%増となった。

方面別では、曜日配列により長期休暇が取りにくい状況であったこともあり、中国、東南アジア、韓国線等の近距離方面が特に好調であった。スマトラ島沖地震・津波については、プーケット、モルディブ方面等に影響は出たものの、全体としては前年比減をもたらすほどのものではなかった。

出国のピークは12月29日、1月2～4日、帰国のピークは1月3～5日であった。

（単位：千人）

会 社 \ 期 間	H15.12.25 ～H16.1.6	H16.12.25 ～H17.1.6	前年比 (%)
日本航空	520	520	100.1
日本アジア航空	33	40	122.7
全日本空輸	139	156	111.7
エアーニッポン	5	6	107.0
計	698	722	103.5

※日本発着ベース

※※合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

※※※日本航空は、JAL、JAZの合計値。

※※※※全日本空輸は、ANA、ANKの合計値。ANAはAJXを含む。

（参考） 日本航空（JAL、JAZ）の日本発方面別輸送実績 （単位：人、%）

路 線	ホノルル	米大陸	欧 州	東アジア	オセアニア	グアム・サイパン	韓 国	中 国
旅客数	45,157	25,939	25,537	70,826	15,791	22,928	31,957	27,867
前年比	87.9	97.4	84.8	105.9	98.1	95.3	118.4	132.9

4. 高速道路（平成16年12月23日～平成17年1月4日）

全国の日本道路公団所管の高速道路の利用交通量は、大晦日から元旦にかけて全国的に降雪を伴う荒天に見舞われたこともあり、対前年同期比2.3%減となった。

主な高速道路の利用交通量をみると、全国的に前年を下回っている。

なお、混雑のピークは、下りは12月30日、上りは1月2日であった。

高速道路利用交通量(日平均)

(単位:千台)

区 分 \ 期 間	H15.12.23 ～H16.1.4	H16.12.23 ～H17.1.4	前年比 (%)
全国高速道路	5,419	5,295	97.7
道央自動車道	67	65	96.7
東北自動車道	236	225	95.3
東名高速道路	393	380	96.5
名神自動車道	233	232	99.7
関越自動車道	167	157	93.8
山陽自動車道	152	149	97.8
九州自動車道	207	204	98.7

※前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

Ⅱ．平成 16 年の邦社航空旅客輸送の動向

ここ数年、旅客輸送のうちで最も変動が激しかったのは、米国同時多発テロ、イラク戦争、新型肺炎（SARS）、鳥インフルエンザ等の影響を受けた国際航空旅客輸送である。また、国内航空旅客輸送も、観光客の海外から国内へのシフトという形で影響を受けた。しかし、平成 16 年の国際航空旅客輸送は、こうした特殊要因による旅客数減少から回復しつつある。

今月は、年末年始の旅客輸送の動向と併せ、平成 16 年の邦社航空旅客輸送の動向について、こうした特殊要因の影響を受けていない 12 年¹との比較、13 年から 15 年の動きについて触れつつ検証する。

1．国際航空旅客数について

平成 16 年の国際航空旅客数は、鳥インフルエンザがほぼ終息した 3 月以降は増加傾向にあり、一連のイラク戦争、SARS 及び鳥インフルエンザの影響から回復しつつあることが、数字上からも裏付けられる。

まず、前年（15 年）同月比でみると、15 年がイラク戦争及び SARS の影響で大幅マイナスとなった反動として、4 月からは大幅プラスを毎月記録している（表 1）。

また、イラク戦争、SARS 及び鳥インフルエンザ流行以前の、前々年（14 年）同月比でみると、3 月を底に、4 月及び 5 月はマイナス幅が縮小、6 月以降はほぼ同レベルまでに回復しており、イラク戦争、SARS 及び鳥インフルエンザ流行以前の水準には回復している（表 1）。

しかし同時多発テロ発生前の 12 年及び 13 年（8 月まで）の同月比と比較すると、なお、10%以上のマイナスを示す月が多い。マイナス幅は縮小傾向にはあるものの、16 年全体としてみると、米国同時多発テロ以前のレベルにまではいまだ完全には回復していないといえよう（表 1）。

では、16 年のうちでも、年末（11 月）の時点の回復状況はどうか。13 年 1 月から 16 年 11 月までの推移を 12 年同月比でみると、15 年 6 月を底として徐々に回復しつつあることがわかる。鳥インフルエンザの影響で 16 年 2 月及び 3 月はいったん落ち込んだものの、再度回復に転じた結果、16 年 11 月には完全とはいえないまでもほぼ 12 年と同水準、すなわち米国同時多発テロ以前の水準に近づきつつある（表 2）。

¹ ただし、12 年 1 月については、コンピュータ西暦 2000 年（Y2K）問題で航空旅客数が低調であったことから、13 年以降の対 12 年比の数値は、1 月についてはその反動が出ることに留意する必要がある。

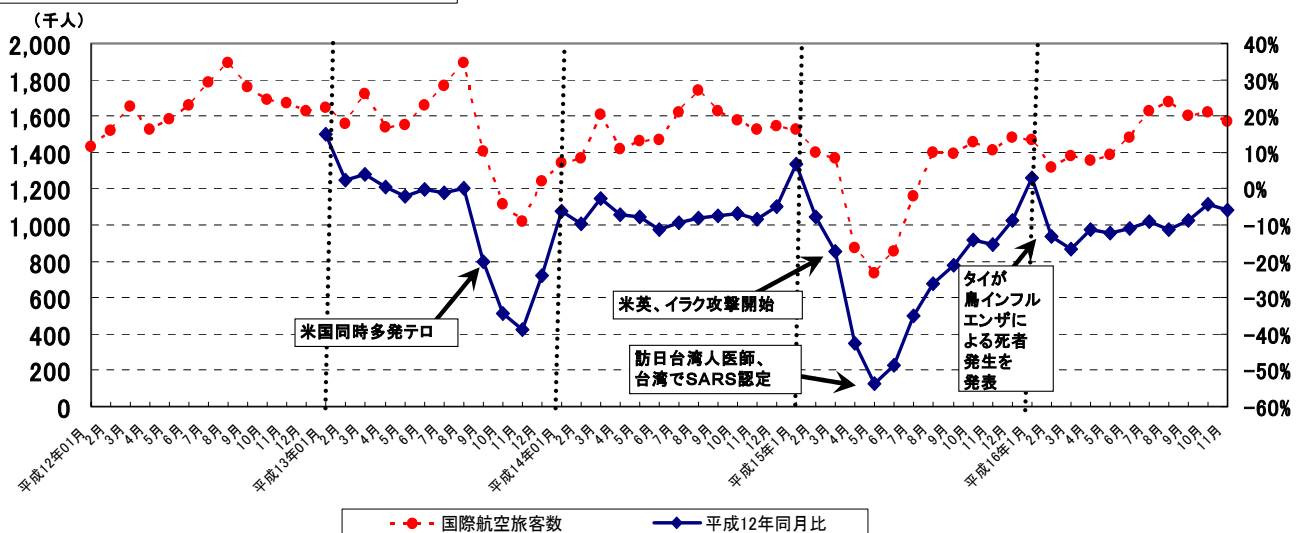
(表 1)

国際航空旅客数

年月	人数	対15年比	対14年比	対13年比	対12年比
平成16年1月	1,470,644	-3.6%	9.6%	-10.6%	2.9%
2月	1,317,040	-5.9%	-3.9%	-15.3%	-13.3%
3月	1,379,943	0.8%	-14.1%	-19.8%	-16.5%
4月	1,356,888	54.8%	-4.1%	-11.7%	-11.1%
5月	1,387,372	89.6%	-4.9%	-10.5%	-12.2%
6月	1,479,276	73.7%	0.5%	-10.8%	-10.9%
7月	1,625,542	40.3%	0.3%	-8.0%	-9.0%
8月	1,677,228	20.0%	-3.5%	-11.5%	-11.3%
9月	1,602,788	15.3%	-1.6%	14.1%	-8.9%
10月	1,617,982	11.2%	2.5%	45.6%	-4.4%
11月	1,567,181	11.2%	2.6%	53.6%	-6.0%

(表 2)

国際航空旅客数平成12年同月比の推移



2. 国内航空旅客数について

国内航空旅客数については、前年（15年）同月比でみると、4月及び5月を除く毎月でマイナスとなった（表3）。

しかし、12年同月比でみると、16年はほぼ12年と同水準、又は若干プラスで推移しており、12年の水準は保っている（表3、表4）。

一方で、14年4月から15年11月までについては、継続して12年同月比プラスとなっている。これはイラク戦争及びSARSにより、海外旅行需要の一部が国内旅行にシフトしたことが一因である（表4）。

こうしたことから、16年が15年同月比でほぼマイナスで推移したのは、15年のイラク戦争及びSARSという特殊事情に伴って観光客が海外から国内へシフトしたことの反動も影響しているものと考えられる。

(表 3)

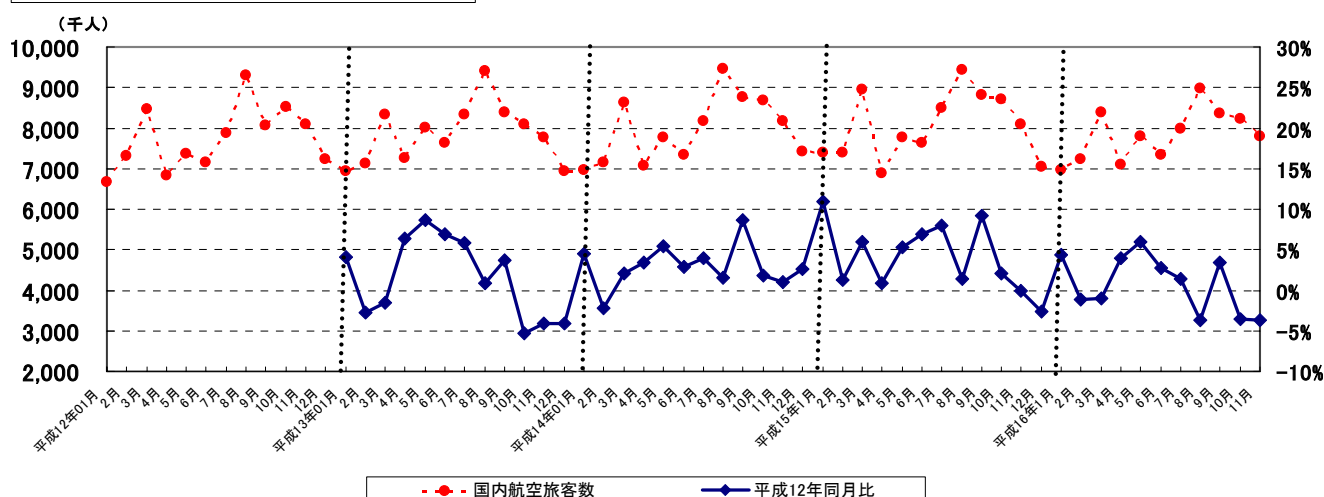
国内航空旅客数

年月	人数	対15年比	対14年比	対13年比	対12年比
平成16年1月	6,957,563	-5.9%	-0.1%	0.2%	4.4%
2月	7,230,835	-2.4%	1.1%	1.6%	-1.1%
3月	8,379,277	-6.5%	-3.0%	0.6%	-1.0%
4月	7,104,088	3.0%	0.5%	-2.3%	3.9%
5月	7,810,068	0.6%	0.5%	-2.5%	5.9%
6月	7,342,872	-3.9%	-0.1%	-3.9%	2.7%
7月	7,982,362	-6.0%	-2.4%	-4.2%	1.5%
8月	8,967,652	-5.1%	-5.1%	-4.6%	-3.7%
9月	8,352,494	-5.3%	-4.8%	-0.3%	3.4%
10月	8,230,539	-3.6%	-3.8%	3.2%	-3.6%
11月	7,794,609	-1.7%	-3.0%	1.7%	-3.7%

※平成16年10・11月は主要8社の数値

(表 4)

国内航空旅客数平成12年同月比の推移



3. 今後の動向

今年の国際航空旅客の動向については、中部国際空港開港による利便性増大、愛知万博開催、日韓国交正常化40周年（日韓友情年2005）等の国際観光需要の増加要因により、引き続き回復基調が続く、米国同時多発テロ発生前の12年のレベルにまで回復することが期待される。しかし、イラク戦争及びSARSの影響からの反動増は一段落したものと考えられること等から、対16年比のプラス幅は大きく縮小するものと見込まれる。

また、国内航空旅客については、週末3連休が多い日並びに加え、愛知万博開催等の明るい材料もあり、国内観光需要が向上することが推測される。観光客の海外から国内へのシフトは、SARSがほぼ終息した16年3月頃にはほぼ終了していると考えられることから、対16年比でみてもプラス基調で推移することが期待される。

上記のように、航空旅客の動向については、国際・国内ともに順調に推移するものと考えられるが、国際情勢の変化、感染症の発生といった変動要因に今後とも注視する必要がある。

(参考)

月	米国同時多発テロ・イラク戦争関連	SARS・鳥インフルエンザ関連
平成 13 (2001) 年		
9	11 日 米国同時多発テロ発生	
10	7 日 米国がアフガニスタンへ攻撃開始	
11	13 日 首都カブール陥落	
12	22 日 暫定政権樹立	
平成 15 (2003) 年		
2	24 日 対イラク武力行使決議案国連提出	
3	19 日 米英、イラク攻撃開始	15 日 WHO から SARS の「緊急情報」
4	9 日 米英軍、バグダッド制圧	2 日 WHO、中国広東省と香港への渡航延期勧告 22 日 外務省、北京への渡航延期勧告 27 日 SARS 死者 300 人突破 29 日 外務省、中国全土に渡航注意
5	1 日 米大統領がイラクの戦闘終結宣言	17 日 訪日台湾人医師、台湾で SARS 認定
7		5 日 WHO、SARS 終息宣言
8	19 日 バグダッド国連事務所で爆発	
10	30 日 国連、バグダッドから完全撤退	
11	29 日 イラクで邦人 2 外交官殺害	
12	14 日 フセイン元大統領拘束 19 日 空自にイラク派遣命令	
平成 16 (2004) 年		
1	19 日 陸自イラク派遣先遣隊、サマワ到着	5 日 WHO が中国人の SARS 感染確認 13 日 WHO、ベトナムの鳥インフルエンザによる死者発生を発表
2		15 日 タイが鳥インフルエンザによる死者発生を発表
3	11 日 スペインで列車爆破テロ 22 日 陸自イラク現地展開完了	30 日 ベトナムが鳥インフルエンザ制圧宣言
4	8 日 イラクで日本人 3 名拘束	
5		10 日 北京市、安徽省 SARS 制圧宣言